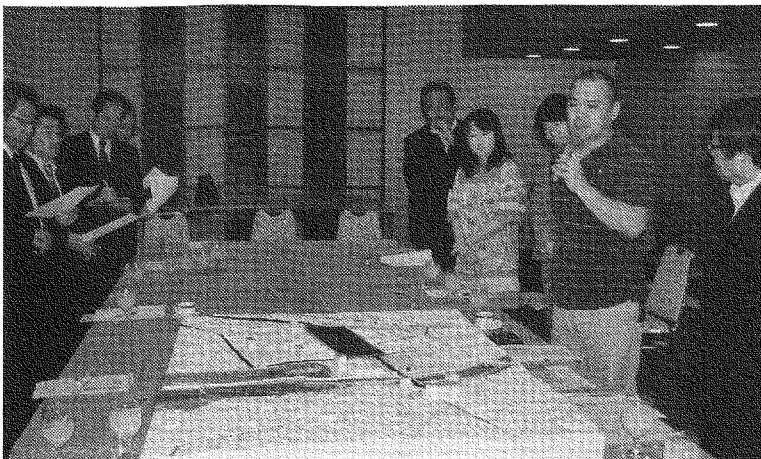


震災後のまちづくりで議論

釧路根室圏まちとくらしのネット総会と例会



北大の森教授を招き

釧路根室圏まちとくらしのネットワークフォーラム(宮田昌利座長)は7日、釧路キヤッスルホテルで2011年度総会と例会を開き、防災フ

ォーラムの開催など事業計画を決めたほか、北海道大学大学院の森傑工学研究教授を招き、東日本大震災後のまちづくりについて議論を深めた。

総会では前年度の事業報告の後、釧路港のおもてなし倶楽部への参加や防災フォーラムの開催。根室や中標津に組織されている「まちとくらしネットワークフォーラム」

との連携・交流といった今季の事業について承認した。引き続き実施した例会では、釧路市総務部防災危機管理主幹の佐々木信裕氏が、大規模な津波が発生した場合の市中部での到達範囲などを説明。これを受け森教授が「建物では大きな津波を抑えきれない。海岸林を造成することなどで徐々にその力を弱めさせ、逃げる時間を稼いだ方がいい」などと提言。宮田座長は「高速道路や駅の高架部分も津波の吸収や一時避難の場として有効」と述べた。また森教授は「震災を機に抜本的に町並みを造り替え、災害に強いまちを特徴にするのもいい。住民サイドからさまざまな意見やアイデアを発信し、それを武器に国にアピールしなければ予算の獲得は厳しい」と指摘した。(高田薫)

森教授(右から2人目)が震災後のまちづくりについてアドバイスした

北海道ハートフルコミ
ユニケーションズ代表の
小国千恵さんが講演し、
職場のコミュニケーション
強化と不調者を早期発

見する大切さを伝えた。
協立海上運輸の工藤友
之現業部長は、釧路港で
の安全衛生活動事例を発
表した。

森林形成が大きな効力

市中心部の防災に

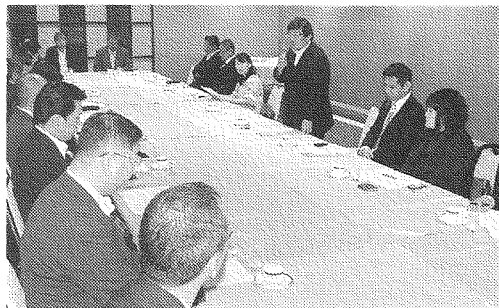
【釧路】若
手経済人
が、地域の
インフラを
考える釧路
根室圏まち
とくらしネ
ットワーク
フォーラム
は7日、釧
路キャッス
ルホテルで
総会と例会
を開いた。

総会で、根室と中標津の
ネットワークフォーラム
と連携した合同例会の開
催など2011年度事業
計画を決定。例会では、
市中心部の防災について

議論し、森林形成が防災
に大きな効力を発揮する
ことなどを理解した。
宮田昌利座長は、高速
道路整備の署名運動をき
つかけに、今では地域イ

ンフラをともに考える活
動を展開していると報
告。また、先の震災を踏
まえ「早急に取り組むこ
とは防災」と強調し、「問
題意識を持ちながら総会
を進めたい」と述べた。
この後、若者の地域見
学ツアーや市中心市街地
の活性化を研究した北大
大学院生の講座などの10
年度事業報告をした。11

し、運営委員会を新設。
7人の新入会員を加え、
会員数は34人となった。
例会では北大大学院の
森傑教授、オプザバー
で釧路開建、釧路市の担
当者を迎え、震災後の
まちづくりをテーマに市
中心部の模型を囲んで話
し合った。

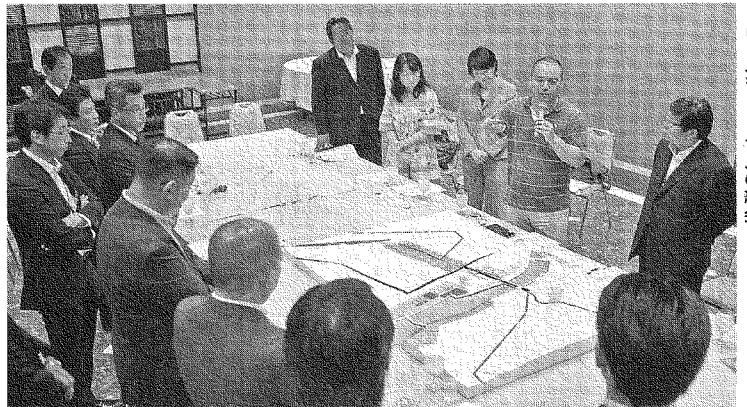


「災害に強いまちづくりを考えて
いこう」と述べる宮田座長

年度はこれま
での活動に加
え、釧根管内
3ネットワー
クフォーラム
が連携した合
同例会、防災
に対する緊急
フォーラムの
開催を盛り込
んだ。
会則の変更
では、役員
任期を2年と

森教授は東北の被災地
調査で分かったこととし
て、木々が防潮堤の役割
を果たしていたことを紹
介。以前、北大生の研究
結果で発表した良好な景
観を生む北大通り周辺の
セントラルパーク化は
「実は防災の理にかなっ
ているのでは。威力を吸
収しながら水を誘導す
ることができれば、時間
稼ぎにもなる」などと説
き、土木の力以外でも市
街地を守る対策を提案し
た。

東日本大震災後の釧路のまちづくりについて
議論を深めた釧路根室圏まちづくりネット
ワークフォーラムの総会



大震災きっかけに まちづくり再考を

釧路の経済人らフォーラム

釧路の経済人でつく
る「釧路根室圏まちと
くらしネットワークフ
ォーラム」(座長・宮
田昌利サンエス電気通
信社長)は7日、釧路
キャッスルホテルで総
会を開き、北大大学院
工学研究院の森傑教
授をゲストに、東日本

大震災後の釧路のまち
づくりや都市計画につ
いて議論を深めた。
森教授は昨年から、
大学院の学生とともに
釧路のまちづくりにつ
いて研究を進めている
ほか、震災後は宮城県
気仙沼市などの被災地
に足を運び、住民らと

復興計画をまとめるな
どしている。

森教授は「防潮堤な
どの人工物で自然の脅
威に立ち向かうのは限
界がある。発想を切り
替え、逃げる時間を稼
ぐための方策を考える
べきではないか」と問
題提起。被災地では家
屋やビルなどの構造物
が津波で流されている
一方、樹木がそのまま
残っていることを指摘
し「森や林が津波の威
力を吸収する役割を果
たす」と話した。

同フォーラムのメン
バーからは「今回の震
災をきっかけに抜本的
にまちづくりの考え方
を変えるべきだ」「避
難路や堤防の役割も果
たす高速道路の早急な
整備を」などさまざま
な意見が出た。

(柳沢郷介)

釧路根室圏まちとくらしネット

勉強会など事業計画決定

本年度総会と例会を開催

【釧路発】釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム（座長・宮田昌利）は七日、釧路キャッスルホテルで本年度の総会と例会を開催した。写真。二十一人余りが参加。

本年度の事業推進方針を確認したほか、都市計画に関する講演に耳を傾けた。同フォーラムは、管内の高速道路や港湾整備の促進を目的に、建設業をほ

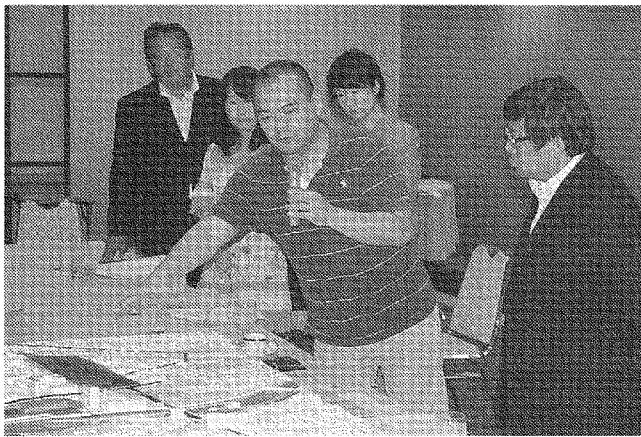


じめ、観光など興業種の若手経済人で構成し発足。現在では、インフラ整備以外にも様々な視点で地域活性化の方策を考察し、外部に発信している。冒頭、宮田座長があいさ

つ。早急に取り組まなければならぬのは防災対策という認識を示し、二十万都市の釧路に十層の大津波が来たらどうするか。日ごろから問題意識を持つことが大切」と述べた。

議事では、会則の変更や本年度事業計画などを承認。事業計画は、基本的には昨年と同様の例会や勉強会を開催するほか、中標津地域、昨年発足した根室地域のフォーラムと合同の事業も行うことを決めた。

このあと例会に移り、北大の森傑教授が「東北震災後のまちづくりについて」をテーマに、自身が進める被災地の現地調査結果などをもちに今後の都市計画の在り方を説明した。



防災と災害に強いまちとして、セントラルパーク化を提案する森教授(手前右から2番目)

木々が防潮堤、防災力高める都市計画も

釧路根室圏まちとくらしネット
災害に強いまちづくり語る

【釧路】「釧路は津波に対しては危険度の高いエリア。ただ、そこを逆手に取り、セントラルパ

ーク化など街の構造を抜本的に変えて、『防災と災害に強いまち』として働き掛けていくことは、地域の活性化にもつながる。今こそ民間サイドから町の在り方をとんとん発信し、行政はそれを武器として国にアピールしていくことが大切だ」

7日に開かれた釧路根室圏まちとくらしネットワークフォーラム(宮田昌利座長)の例会で、防災面での森林の有効性を説いた北大大学院の森傑

教授。津波の威力を人工物で100%阻止することの難しさから、発想を切り替えて、逃げる時間を稼ぐ二つの方策を紹介した。

この日、釧路市中心部の模型を囲んで、行政担当者を含めた約30人が自由討議し、防災をテーマにそれぞれ、まちづくりを語った。

森教授は、被災地で木々が防潮堤の役割を果たしていたことに触れ、「メインストリート周辺に森林を形成し、防災力を高める都市計画もあるのでは」と提案。宮田座長は多機能な植樹に加え、鉄道高架や会の趣旨でもある高速道路整備による防災効果を説き、「高速道路自体が逃げ場所になり、街中の高架は障壁にもなる」などと持論を展開した。

釧路市の佐々木信裕防災危機管理主幹は、市防災計画の見直しについて言及。「有事の際、すぐに逃げ込める施設をいかに確保するか、リスクに対する情報開示に視点を置きながら策定していく」との見通しを示したほか、震災当時、避難所では情報が少なかったため、多くが帰宅したことを振り返り、「避難所を振り返り、避難所をいかに情報を送るかも大事」と述べた。

このほか、「真つ先に駄目になるのはライフライン。行政の機能が保持されるよう独自電源をしっかりと持つことが大事」「地下にある電源、機械類の地上化は早急に検討しなければ」「災害時は身近な情報を求める。避難所には必ずラジオを置くこと」などの意見が出た。